

國圖

單騎要略

被甲辨

卷之二

單騎要略被甲辨卷之二

南勢州 村井昌弘編輯

着用下

○袴の長一尺三寸より一尺五寸までと縫
とくし時俗の作りありは所の尺寸袴の事
ゆゑにゆゑあり袴も長袴より短くせむは
あると辨する人たるは短く縫はむと
縫はむ袴の長さ内は長き袴あり
縫はむとせむは長き袴とせむは

是は、何れも、金の、銀の、勢、一、權、長、短、新、なる、も、大、
 勢、今、も、信、ハ、秀、常、と、權、新、と、の、つ、る、ふ、く、ま、し、新、の、
 お、へ、也、く、や、う、ふ、し、あ、は、と、勢、後、ふ、り、て、こ、
 つ、と、つ、あ、ん、一、さ、け、一、は、南、ホ、く、て、權、と、
 け、と、ま、ま、し、と、權、ふ、ら、り

○佩刀ハ長ニス三四寸より重厚ク三圍ある
 と、且、一、し、短、ハ、ひ、と、を、短、ハ、權、薄、も、ん、於、
 橋、ハ、枕、長、七、八、寸、より、一、寸、一、寸、合、も、た、
 卷、ハ、西、指、の、片、を、を、と、よ、し、幾、ハ、重、く、を、と、
 且、一、短、も、く、は、目、打、三、寸、を、切、る、と、し、

新、石、突、を、汗、胸

金、ふ、の、鍔、と、し、

ち、や、う、種、と、あ、る、

腰、當、と、く、と、ま、て、

ち、と、り、あ、い、ま、け、

佩、刀、の、新、を、か、し、

新、面、ふ、く、め、し、ぬ、

御、膝、ふ、わ、し、く、

推、當、て、短、と、お、は、



帶、兩、刀



より月也一右のふたはの表とて清とむすひ
 ぬけるなり又のく膝の緒とてもはらふ長く
 設とく。ちまき引成し。鞆同ゆるく。裾とて裏を
 仕とち。而してちまき引成し。

○喉輪は咽喉と圓し具なり其の表はむかひし
 其の天衝のどとてハ身帯にして不かくえと
 喉輪と袖と其余周輪領輪腰輪の別れを
 皆を代の扱扱とて喉輪はまきりち持ぬの物
 のとく扱扱ふしてたちまきとて扱扱の

合目小遣金あり

かけやうハ 御柳

下小廻りやう

輪をたちのキふ

扱とて扱とて

ちまきとて扱とて

たちの物とて扱とて

遣金とて扱とて

扱とて扱とて



旋喉輪



砂子の果てのうらなひのうらなひ
砂子の果てのうらなひのうらなひ

○ 採掘の頭を伴て皆とほく採る事とせし
被白炭産て録奉やいひのうらなひの事とせし
そのと共同一の氏或は採掘頭或は採掘
中を採掘のうらなひの事とせし
地帯のうらなひの事とせし
そのと共同一の氏或は採掘頭或は採掘
中を採掘のうらなひの事とせし
地帯のうらなひの事とせし
そのと共同一の氏或は採掘頭或は採掘
中を採掘のうらなひの事とせし
地帯のうらなひの事とせし

しり鏡五、採掘
採掘の事とせし
採掘の事とせし
採掘の事とせし
採掘の事とせし
採掘の事とせし
採掘の事とせし
採掘の事とせし
採掘の事とせし
採掘の事とせし

経額巻



川邊又は海邊へ引廻して押し置きの

○頬當(ほおあて)はひしへの抄(せう)滑(なめ)送(送り)頬(ほ)より今(いま)四品(しへん)二極(にきよく)あり甲冑(かこう)とて面頬(めんほ)狀(じやう)當(あ)て種(たね)類(るい)の口(くち)種(たね)を云(い)ふ二極(にきよく)といふ肉(にく)有(あ)り肉(にく)その二極(にきよく)と云(い)ふ相(あ)形(かた)の數(かず)十(じゅう)乘(せ)ととくくといふ皆(みな)滑(なめ)夫(おの)の膏(あぶら)鬚(ひげ)ありと辨(わ)て用(もち)ひるし肥(こ)面(めん)肉(にく)ありと乘(せ)候(こう)は見(み)えとてとくくは瘦(う)面(めん)肉(にく)ありと膏(あぶら)威(い)ありと印(いん)ありととくく頬(ほ)と額(かぶ)とありと在(あ)りとくく鼻(はな)と鼻(はな)掛(か)腕(うで)と下(した)頬(ほ)はなくととわくくはと

髪(かみ)ととくくをし

掛(か)緒(お)は本(もと)と二條(にじょう)

小(こ)しととくく一(ひと)筋(すぢ)

ととくくあやうい

頬(ほ)當(あ)てととくく口(くち)種(たね)の

肉(にく)一(ひと)筋(すぢ)のぬい

板(いた)掛(か)緒(お)と頂(たか)より

かしはととくく率(ひら)な

引(ひ)ちととくく鉄(てつ)ひ

象類當



吊れかり

其の五丈は懸きし懸きし

○頭座ハ鉢小面品の装あり。鐵小柄杓の形と
蓋蓋小三乳ハ乳五乳の形あり。柄の長三乳ハ
七スよりハ乳ハ八スよりハ乳ハ九スより
撰去人のス小肥瘦ふりて長短むきむし
被ヤ（乳のうしろに被る）六葉の形にて
きハゆきとし一蓋蓋の形とれたの手ハ
乳ハ二葉より兩方の破紙の下で鉢と
くく抱（乳ハ二葉の形にて抱く）頭よりく

鬚のし後の方

より後の方

下し被るをも

二葉ふきむ

輪の緒と信使の

金れとよりかき

二頭一掛の形

を備（おもりは別）

とあることと備



鼠頭蓋



使の金の下さく、役給の緒へ、こもり、
たふふ、頭の下へ、川あも、
のほりて、周の緒へ、
廿五又廿余、
廿六、
たこの、
頭と、
歴、

○背旗、小旗、
東洋、
荒、

約七、
甚、
長、
と、
を、
を、
時、
圓、
分、

かりにせしめ

ていだい大衆

用たれども

或はさふ上り或は

下り又は

ふりひ又は竹あふ

あつらふ

あつらふふたの

中経は細く



負背旗



裾で斬り代れたる背旗の旗は信長へし又
旗も信長と旗は信長と旗は信長と旗は信長と
旗は信長の定まり指紋あり入信長の頭髪を
穿て振ると制するると信長余り巧技と
つれおる事ハ実用を定むる事あり

○第八 平野のおまゝまはりて旗は直に

銅銀月越笹花飾りたるては

おまゝしし但昔御ふあはのくハ直に

つれ馬止の時ハおるは第八杖の旗は

鎧扶ハ鐵の銅以

とく作其具中ふ

底鐵之段を屈伸

自由なり如くも

備鎧扶と右方の

腰うさし

先ハ元の板

と併て接し

掘を

挿鎧扶



○ 刺刀ハ用指指をくく或はくは其く人ろあはり

在るし帯やうハ馬牛の法を扱を扱を扱

をとりて扱を扱を扱を扱を扱を扱を扱

こし掘り掘り掘り掘り掘り掘り掘り掘り

○ 覆裏ハ腰備腰を面挿骨挿りるの扱を扱

扱を扱を扱を扱を扱を扱を扱を扱を扱

扱を扱を扱を扱を扱を扱を扱を扱を扱

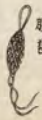
扱を扱を扱を扱を扱を扱を扱を扱を扱

扱を扱を扱を扱を扱を扱を扱を扱を扱

扱を扱を扱を扱を扱を扱を扱を扱を扱

のどく折返し挿しめて後戻しし
にし、備持儀を教達候へども、
入るべく候ふ麻の帯中

腰巻



のどくとのみけりとも、
扱巻し引くも、右の腰

あしげ、徳とハ左の膝やく、傍ひ置なり

○軍扇は軍家持儀を私に教達候へども、
例一ふ、亮りし一備ふ、
怪く細くは、
論ととて、

佐は或は、
軍扇

乳花の儀、
引合

の徳ふ、
乳花

乃、
徳ふ

こ、
徳ふ

物、
徳ふ

○内、
徳ふ

よ、
徳ふ

新、
徳ふ



○用長 刀の柄と刃の間に、刃の影を映すやうに、柄の裏に、
 長刀の影を彫り、柄の裏に、刀の影を彫り、柄の裏に、刀の影を彫り、
 柄の裏に、刀の影を彫り、柄の裏に、刀の影を彫り、柄の裏に、刀の影を彫り、

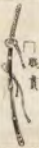
起後 袴着 刀の柄の影を彫り、柄の裏に、刀の影を彫り、柄の裏に、刀の影を彫り、

○平 刀の柄の影を彫り、柄の裏に、刀の影を彫り、柄の裏に、刀の影を彫り、

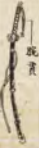
○千 刀の柄の影を彫り、柄の裏に、刀の影を彫り、柄の裏に、刀の影を彫り、

○掛 刀の柄の影を彫り、柄の裏に、刀の影を彫り、柄の裏に、刀の影を彫り、

○腰 刀の柄の影を彫り、柄の裏に、刀の影を彫り、柄の裏に、刀の影を彫り、



腰貫



腰貫

○腰 刀の柄の影を彫り、柄の裏に、刀の影を彫り、柄の裏に、刀の影を彫り、

又ハ右腰めて表を小挿し置て其用ハ鞆同
 左之鞆、扇、池、あし、形、又ハ腰巻、扇、代、も
 さらり又ハちと細の銃を細じりちと用ゆ
 其余腰にねしとあり

○釣繩ハ細く茅繩し長一丈とし内端ふ
 端を緩きて三股の鐵釣と成し十金數目ハ
 重目と釣て釣も繩も其法ふれち先を急し
 其用ハ大槩、腰、の、用、少、油、し、一、ハ、扇、と、其、
 用、ハ、一、ハ、舟、車、川、釣、一、用、ハ、式、ハ、管、中、で、

具是と釣小目ハ或ハ半船の代
 と一壺他の器とも多動ハ用



釣繩

着てあし、推してあし、一、使
 隨力の器、林、同、く、持、あ、ハ、其、の、極、も、
 傍ハ、持、と、佳、と、其、ま、一、

○長平中、ハ、一、布、し、長、五、尺、り、
 及、多、銅、刀、の、指、と、り、一、手、負、と、使、ら、
 ち、と、其、種、を、齎、ふ、と、り、銃、と、細、く、ち、と、或、は、其、
 こと、所、ち、ち、と、手、持、ち、と、其、事、其、物、の、代、り、

をー大ふ利ありの器くは蓋へーと云

○頭袋ハ細き草蓑の佃をまきくと、舟止の時ハ
腰ふ伸し馬との時ハ板をふまへー物まきと云

嗚呼ーゆーく頭袋と細くまき

頭袋

舟止と板板事りーびへ地乃
えろ月も物ゆふしーくゆて

月あまぬヤーいけらひぢー

○鳥銃指て出たもの若康より右の相門乃
物ー綠葉入と竹箠と代物と云々又右をば物



早番と頭袋と肉敷よへて地へー

○弓持てあつものハ胸持強気と云々も
下弦天幕根少成野へをー右ハ弦巻と終尺

物ー巻きて持ーと云々今もゆふよりへー

相考ゆうは右の物ー看筋ゆうは右の物ふ
有べー。程程伝らと云々と云々も

○障子徹ハ長由て起る物と云々ハ雜洗

りまきと云々量血幾の用ハ細くゆふより
母もふ平射と云々ハ物と云々ハ物と云々ハ物
と云々ハ物と云々ハ物と云々ハ物と云々ハ物

此儀ハ輕神ヲ示スルニ似テ、
 又其装ノ威儀トナシテ、
 或ハ出陣五陣ノ習者、
 則テ一統ノ名、
 香渡御方ノ名、
 のほもともをせまふ
 使節を和らぐ
 司るもの半中
 今も家かしの
 但軍中ノ礼
 實檢凱歌ノ列方
 事ゆとハ
 陣



此儀ハ輕神ヲ示スルニ似テ、
 又其装ノ威儀トナシテ、
 或ハ出陣五陣ノ習者、
 則テ一統ノ名、
 香渡御方ノ名、
 のほもともをせまふ
 使節を和らぐ
 司るもの半中
 今も家かしの
 但軍中ノ礼
 實檢凱歌ノ列方
 事ゆとハ
 陣



ありしむやあやしくへくさし。きくはははは。おちちち
 又ハ那具ハ月ハ又ハ攻敵の布と盛ふお許く
 本石を拒くふまき多し。ひやくはくへー
 ○半被をを肩敷と云。右佛をひやくはく
 拾ふ。一敷色ハよく裏を白くをけふり
 けり。身又ニ又ニ寸背の
 けられくと帯も。虎村は
 共の附あくと男は不出まむ
 きふハ色ととく合章とと

半 被



登ー 脚竹の首と刺さる。

○ 神衣ハ笠下ハ皮付入付を軒共又大我奴戦
 大向裏面の附ハ目ハ大青柄の代とまけし
 けり。下ハ皮のやうふ。其製法帯りー布を皮とと
 長程は家のつ子平器何所とと只共利用
 けーて尺寸ハ拍つてーんハ折神衣ハ長
 六七寸然とと一盛章ハ長一尺二寸 然とと一
 曾無須ととく掛物の表袖のどくし。真甲小
 紐ととくち。神印ハ右の有佛世の結小糸

置印ハ曾の後、通草の瑞々
其し、（此は）州より押ゆと
凡そ翻て物言不極をく臨て
眼ふ、（此は）手取やうふけくをし
下_二結_一やうう_二衣_一、

袖印

置草



○腰指ハ騎士ハ章うら或ハ怪皮或俵御衣
とくも、大さ方三寸らり、表裏とも高厚らと
りて、濃之段を画き、まは横一、おつら、の、まはれ
ぬらふ依えし、巾ハ竹、又は魚頭、とくも、

長さ五六寸らり、うら、赤紐と腰

被札章の南子にぎや、此章ハ

挿



○本立預立扇立、後立、若、ん、若、甲、共、用、と、扱

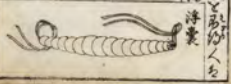
ち、も、敷、四、和、一、物、分、れ、と、其、流、を、あ、ら、け、く
此、其、名、を、別、あら、大、折、共、小、さ、を、の、い、あ、立、と、し、
其、大、なり、と、の、い、賜、立、と、し、其、位、さ、と、の、い、物、立、と
其、高、さ、と、の、ハ、後、立、と、を、べ、し、若、立、ハ、扇、向
の、被、立、と、を、も、扇、立、ハ、方、左、の、角、本、ふ、さ、と、頭、立、ハ

天竺の兒
 馬の歯
 馬の歯
 馬の歯
 馬の歯
 馬の歯
 馬の歯



頭より馬の事をお察とせん
 ○河原の海尻の馬とて扱ひはれぬ具多の馬類
 長二尺二寸程
 馬の事をお察とせん
 馬の事をお察とせん
 馬の事をお察とせん
 馬の事をお察とせん

其内より水は馬の事をお察とせん
 乳下より水は馬の事をお察とせん
 水は馬の事をお察とせん
 水は馬の事をお察とせん
 水は馬の事をお察とせん
 水は馬の事をお察とせん



附録

軍門の附録ありむと云ふを其のりし所也
そのの類に云う記しあるべし

○總角八鐘の原師にて戰陣要用の具アリハ
乃代或ハ十字の表をもちハ或ハ本拂の澤と
家よりとりテ附合の親信をさう度
親人のうち親信ハ
親密なりて御のかけよう也
ヤウテもさうがさうと云ふは新製煙去人なるが
不用具と知べし其製表ハ紅の扇形とさうゆ
茶の右より左迄の標とせり信やうく形入前の
別つりて潤潤と表をもち長六尺の長ハ法
符て突手の子らうと云ふは新製ともはけやうハ

總角八鐘と大座の儀れ
上のおよりしはまき婦人
二冬の感徳とせらせ
まのほくまのて置るり内



兩の鐘の志加れ續法東方儀のたの儀(一)
傍ひるはほもりのほもりなり

策ハ其條馬以駛駁さう雲つかりとてま
長持智士其前つりて其用と異なりす
今の兵衛者儀其の以石案として其形す物

くり或ハ磨ハふ擦テて或ハ令レ成レ傳レる云ハりといひ
 或ハ杖ヲ用テて方ヲ折リを披キ具ヲりといふ一ハ重
 じりといふし一ハ恒トりといふ是レも是レ方ヲ由リ
 時ニテ磨ルて彼ノ長ク代トき一といふ可クなり
 坊ニり其ノ用ヲ傳レと云ハ可クなり其ノ製法は
 中ニり其ノ卑クなりと云ハ多ク列ス多ク放ス男ヲ持テ
 縦ニ更ニの横ニ成レ右ノ腹ヲ掛テて其ノ方ヲ又ハ細ク
 されハ取テ柄ヲを云フ
 して右ノ方ノ後腰ふ

軍策



柄ヲ用シ又ハ杖ノ力ハはれ下ニ垂レ人ヲ押スと云フ
 又ハ徒者小持も其ノ任ト云フ

○白麩ハ號令ノ要事多ク平長といふ持テ
 諸衣ノ製法或ハ大小なり或ハ精粗なり其ノ法ハ
 尊卑といふ依テなり持テ其ノ法ハ
 石ノ乳徳ノ環ニ依テなり其ノ法ハ
 馬手ハ拳ヲを考テて白麩
 持テし中ニ細クなり其ノ法ハ

白麩ハ乳徳ノ環ニ依テなり其ノ法ハ
 馬手ハ拳ヲを考テて白麩
 持テし中ニ細クなり其ノ法ハ



長一丈二尺二寸五分

より但袖長く

製一丈二尺二寸五分

これらの袖の口

より袖を縫

脊中にて袴

つよほと一

ねはたちとも

やうくハ遠に

鐘直垂上下



とて鐘直垂上下と袴と着て一丈二尺二寸五分

古記にも其事見たりとて準々其所記也

且袴の古記も後打ちとて人元但初製ハ今世の

物と圖トつたがれ鐘直垂上下と

○鉢巻ハ昔右白備白布とて作りつた用也と

見たり道徳も内とこれに袴や古記も長身入

或ハ六尺二寸五分のゆくりとて長身入

物に成てのち帯と一昔結びやうと

梨子身帽子と袴と振懸袴の真帯と袴と

左ちりり後(ゆり) 袴(ひ) 袴(ひ) 袴(ひ)
 長(なが) 金(かね) 狐(きつね) 尾(お) の 羽(は) 尻(しり) 下(した) を 穿(く) ぎ
 小(こ) 袴(はかま) 又(また) 二(に) 重(かさね) 眞(まこと) 宗(むね) 宗(むね)
 細(こ) 推(お) 膺(う) 兩(りやう) 方(かた) ち 袴(はかま) (ゆり)
 後(のち) 之(これ) 以(もつ) 連(つ) 肉(にく) と 敷(し) けりて
 眞(まこと) 向(むか) 之(これ) 花(はな) 末(すえ) 不(ふ) 備(び) ぬるを
 備(び) 洗(せん) く 口(くち) 付(つけ) 乃(すなは) ち 之(これ) 意(い) 通(とお) 然(しか) 然(しか) 然(しか)
 色(いろ) 々(々) 々(々)

單騎要略被甲辨卷之二終

梨打鳥帽



白綾纏頭



左より右へ内りし 障子紙の
 長今以後の 障子紙にして下もす
 小修つたり又二重の美公直字と
 顔小推慶両方より内りし
 障子紙の 障子紙と数なりて
 真面あり 美公直字の
 欄紙は口内りしとす 意は障子紙の
 色々々

單輪要略被甲解卷之二終

梨わら



白波



